

斐太北小 ESDだより

Education for Sustainable Development(持続可能な社会の創り手を育む教育)

「楽しかった」だけじゃない～中学年部『お楽しみタイム』に込められた学び～

5月14日(木)から、中学年部の朝活動は、3年生教室と4年生教室、それぞれで行っています。

中学年部(3・4年生)の朝活動は、今の斐太北小学校の実態を考えると、「落ち着きをつくる時間」であると同時に、「私たち」を育てる時間でもあります。合同で集まることだけを目的にせず、まずはそれぞれの教室で

安心して一日を始め、その上で学年部としてつながる活動を少しずつ積み重ねていくことが大切だと考えました。



一見すると、「一緒に学ぶ」ことから離れたように見えるかもしれませんが、ESDで大切にしたいのは、同じ場所にいることではなく、一人一人が安心して学び、自分を整えながら、よりよい関係をつくっていくことです。

そんな中学年部で、子どもたちとの話し合いから新しい取組が生まれました。毎週金曜日、体育館で行う「お楽しみタイム」です。そして、そのまま体育館で31人が車座になって朝の会を行います。

3・4年生が混ざった6人グループで、「自分も楽しい、みんなも楽しい遊びって何だろう。」をテーマに話し合いました。中学年部31人全員ではなかなか意見がまとまりません。でも、小さなグループになると、驚くほど活発に意見が出てきました。

そして、6月5日(金)。記念すべき第1回のお楽しみタイムが開かれました。

企画した遊びは、「猫とネズミリレー」。猫チームとネズミチームが円になって並び、一方が追い、一方が逃げる。どちらかが相手にタッチするまで勝負は終わりません。

体育館いっぱいには歓声が響き、大いに盛り上がりました。終わった後、子どもたちからはこんな声が聞かれました。

「楽しい気持ちだけだった!」(4年生)

「負けて悔しかった。みんなと少し離れて悔しさをかみしめたけど、みんなが輪になって座っているのを見て、負けたチームも振り返りをしているのを見て、楽しかったなと思い直した。そして、輪に入った。」(4年生)

「タッチした時、走り終わった人とぶつかりそうになった。どうすればよかったかな。」(3年生)



「楽しかった。もう1回やりたい!」レクを楽しむだけでなく、「もっと安全にするには」「みんなが楽しむには」と振り返る姿がありました。

一方、企画した子どもたちも、様々な思いを語ってくれました。

「不安だった。緊張した。しゃべりたくないくらい、体力も使った。でも、やってよかった。」(4年生)



「みんなが喜んでくれてよかった。グラウンドならもっと思い切り走れたかもしれない。」(4年生)

「もうちょっと役割をちゃんと決めておけばよかった。」(3年生)

「負けても楽しい。このゲームにしてよかった。役割分担が大切だって分かった。」(3年生)

楽しい時間の裏側には、考えること、話し合うこと、役割を果たすこと、そして振り返ることがありました。

これこそ、ESD が目指す「対話し、協働し、よりよい社会をつくる力」につながる学びなのだと感じています。

実は、この日の朝8時5分。校長が体育館へ行くと、4年生の男子二人が言い争いをしていました。

今日のゲーム担当だった子は、仲間と打合せや準備をしたくて、早めに体育館へ来ていました。一方、担当ではない子も、お楽しみタイムが待ち遠しくて、早く体育館へ来ていました。

「準備の邪魔をされるかもしれない……。」

そんな不安から、担当の子は「体育館に入っちゃだめ!」と強く言ってしまいました。

言われた子は、「いやだ。」と反発。帽子を取ったり、仲間に助けを求めたりするうちに、けんかになってしまいました。

話を聞いてみると、二人とも同じでした。ただ、「お楽しみタイム」を楽しみにしていただけだったのです。

決めつけ。勘違い。言葉足らず。そんな小さなすれ違いが、トラブルを生み出していました。

互いに気持ちを伝え合い、「ごめんね」と謝り合った二人は、急いで体育館へ向かいました

廊下を走ってしまったことは……ご愛敬。その後、一緒に笑顔で遊んでいたことは、言うまでもありません。

私たちは子どもたちに、「けんかをしない子」になってほしいとは思っていません。相手の気持ちを想像し、自分の思いを言葉にし、すれ違いが起きても、対話によって関係をつくり直せる人になってほしい。そんな力こそ、これからの社会を生きる子どもたちに必要な力なのだと思います。

中学年部の「お楽しみタイム」は、朝レクの時間であると同時に、「自分たち」から「私たち」へ。

一歩上の自分を目指す、小さくて大切な学びの時間になっています。